

(学年) 第3学年, (教科・科目) 地理歴史・地理B

協働学習

(単元) 資源と産業 日本の農林水産業

(本時のねらい)

日本とアメリカやその他の国の農林水産業の形態について比較するなかで日本の農業の特徴や課題を考察し、今後日本の農林水産業がどのようになっていくか考察し推測をするとともに、世界の農林水産業の課題解決に向けて考え、取り組んでいく重要性に気付かせる。その際、ICT ツールや授業支援アプリを使うことで、グループ学習を通して様々な意見を効率よく比較して知識を深めることを目指す。

(ICT 活用方法)

全体を通して授業支援アプリを使用することで進行していく。

導入：回転寿司店の商品（魚介類など）の産地を調べて授業支援アプリで表にまとめる。

展開：日本の林業の変遷を捉え、近年の自給率上昇についてグループで話し合う。

論理的に複数の資料から考えて、授業支援アプリの班別作業ページにまとめて発表する。

まとめ：日本の農業（林業、水産業）について現状を踏まえた上で、今後どの様になっていくかをグループで話し合い授業支援アプリにまとめて発表する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 10分	・回転ずしの魚やネタはどこから来るのかを考えたり、インターネットで調べたりする。	・調べ活動ができていない生徒には、回転ずしチェーン店のホームページを検索させ、「原産地情報」を探すように指示する。	・インターネットから情報を集め、授業支援アプリ内の表に適切にまとめる。
展開 30分	・資料集のグラフや配布資料から日本の林業の変遷を捉え、近年の自給率上昇についてグループで話し合う。 ・遠洋漁業が衰退した理由を各自で考察する。	・木材供給量の減少理由も合わせて考えさせる。 ・排他的経済水域の設定、石油危機、嗜好の変化、輸入価格の低下など様々な要因がある可能性に気付かせる	・論理的に複数の資料から考え、グループで積極的に意見を述べながら、授業支援アプリ内の班別作業に記入させて、班として発表する。 ・授業支援アプリ内の資料を参考にし、インターネットで検索して考察する。

まとめ 10分	・日本の農業（林業，水産業）について現状を踏まえた上で，今後どの様になっていくかをグループで話し合う。	・ブランド化，ICT活用（スマート農業），大規模化・企業化，国の支援による維持など多様な意見が出るように促す。	
------------	---	---	--

## (授業の様子)



生徒作品を発表



グループで考察



グループで共有

## (生徒の反応と課題，改善を要する点)

今回の一つ目の課題は「通常の授業」を強く意識して，小単元の設定時間内に終わらせることであった。そのために通常の授業でも利用できる形式で，授業支援アプリを実施することであった。前は生徒間において1人1台端末使用技能に大きな差があり，通信環境問題や1人1台端末トラブルもあったが，今回は事前にそれらを克服した上での実施であり，より思考させてそれらを適切に記入できる問いを複数設定した。また，目標に関しても日本の農業，林業，水産業の項目ごとに設定して実施することで，それぞれの項目一つひとつが重要である事を意識づけるようにした。

農業，林業，水産業ごとに目標を設定しそれに合わせて思考させる問を設定したが，1時間で終わらせるには難しい内容であり，一つの項目をより掘り下げて考えさせるために導入であった回転寿司のネタの産地の間に合わせて漁業中心に授業を展開させればよかった。項目ごとに生徒達に伝えたいことがある場合は，単元全体から集中的に取り組むところと，ポイントをおさえるだけの小単元に分けて，メリハリをつけた授業構想を年度当初や大単元ごとに考えておかなければならないと感じた。次年度以降も生徒達の主体的な活動を中心とするために，適切な1人1台端末利用について研究していく必要がある。